

長井市地域おこし協力隊活動報告



のぼり かつあき
野堀 勝明 (63)

東京都出身

2021.11~ 協力隊着任

活動テーマ

文化を基軸としたまちづくり

ハード整備に依存しないソフトな活動から、長井の魅力を見つけ出し、市内外に情報を発信し、シビックプライドの形成に寄与する。

協力隊になったきっかけ

地方 (Local) 小さな (Small) 仲間 (Community) をもって、Global で Giant な世界を利用しながら、故郷の置賜地域を、私の活動するフィールドと考え、まちづくりの活動をしたいと応募しました。

● 菊地隆知作品の紹介・認知向上

市民美術館設立をすすめる会と、一般財団法人文教の杜ながいと連携企画として、菊地隆知作品の資料・データの整理と企画展の開催を支援 (9月、12月の2回)。作品ハンドブックを作成 (計600部)、来場者への配布 (合計来場者数295人)。

また、作品集やガイドブックなどを自分たちで簡易に作るためのマニュアル作成



● 文化財のデジタル化と見える化

長期的にみた文化のデジタルアーカイブについて、データベース化からホームページアップ、コンテンツの検索可能性を含めた総合的な仕組み、体制、スケジュール、運用等の検討を開始。現状の把握、推進のステップ作りを、一般財団法人文教の杜ながいと連携しておこなっている。



● 長井文化の記録と見える化

長井では「普通のこと」でも、他者 (来街者) からは、不思議な感覚や貴重な経験になる事象が多くあります。

様々な、まちあるき・地域散策 (里山など) ・各種イベントへの参加を通じて、フットパス、コミセン、アルカディア観光局、黒獅子の里案内人との関係を築き、何が参加者にとって有用な経験となったのか? をまちづくりの視点として整理



今後の抱負

- 文化のアーカイブを使いやすく構築し、常時アクセスできる環境を低コストで運用できる (ASP・SaaS) を試験的に利用予定。
- まちあるき活動で活用できる、長沼孝三の屋外作品の案内ガイドブック等の制作。
- これらを大きく括れば、文化の見える化です。様々な活動の上に、①記録する②まとめる③広げる④関係を作る⑤評価する⑥充実するというプロセスを意識しています。

文化の見せ方を工夫し普段の生活が豊かに感じられることが大事と思っています。

